

御文章に聞く(第79回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流勸化章（五帖第二十二通）
 そもそも、当流勸化のおもむきをくわしくしりて・極楽に往生せんとおもわんひととは、まず、他力の信心と
 いうことを存知すべきなり、それ、他力の信心というは・なにの要ぞといえ、かかるあさましきわれらごとき
 の凡夫の身が・たやすく浄土へまいるべき用意なり、その他力の信心のすがたというは・いかなることぞといえ、なにのようもなく・ただひとすじに・阿弥陀如来を一心一向にたのみたてまつりて、たすけた
 まえとおもうころの・一念おこるとき、かならず弥陀如来の・撰取の光明を放ちて、その身の娑婆にあらんほどは・この光明のなかに撰めお
 きましますなり、これすなわち・われらが往生の定まりたるすがたなり、

火車来迎

地獄への直行便。亡くなったとたんに火の車が迎えにきて地獄の地下八階の阿鼻地獄へ連れていかれてしまう。人間誰しも地獄直行の可能性を秘めているので要注意である。



『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

今回も御文章（蓮如上人からのお手紙）を味わっていきたいと思います。先月は、「撰取の光明」といって、阿弥陀如来におまかせをする信心の起こったとき、阿弥陀仏は光明を放って、その人を撰め取って生涯捨てたまわれないと解説しました。親鸞聖人は「撰取不捨」の言葉を、『浄土和讃（弥陀経意）』に、
 十方微塵世界の
 念仏の衆生をみそなはし
 撰取してすてざれば
 阿弥陀となづけけたてまつる
 と詠われました。これは、南無阿弥陀仏とは、仏さまの単なる固有名詞ではなく、「若し生まれずば正覚を取らじ」と誓われた本願を成就されて、本願のままに十方の衆生をすくうことのできる仏になつたという、すくいの名のりなのです。親鸞聖人は、その内容をより具体的に「撰取不捨」の言葉によって味わわれたので、「南無阿弥陀仏」の名号は、「十方の衆生を撰め取って捨てぬ」と名のつてくださっていたのです。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。先日こんな話を聞きました。動物は食物連鎖があり、食べる・食べられるの関係にあります。もちろん生きるために必要な行為ですが、ある意味そのおかげで個体数のバランスが取れているのだそうです。ですが、たまにそのバランスが崩れ、ある種だけが多くなりすぎる時があり、その抑制に一役買っているのが病気がさうです。なるほどと思いましたが、話しには続きがあり、人間は病気に打ち勝つ知恵があり、抑制が効きません。なんと人間のバランス抑制は戦争だそう。人間の歴史は争いの歴史でもありますが、そんな側面を持つていたのかと思うと何ともいえない気持ちになりました。仲よく平和に、安心して暮らしていける世界を望みます。（釋法道）

浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。
 デジタル「じゅこう」をお届けします。

行事案内

日時・六月七日(日)
 十三時〜十六時
 行事・浄覚寺バザー
 場所・浄覚寺境内
 今回で最終回となる浄覚寺バザーです。
 皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひ来場ください。
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

7月
 7月19日(日) 10時〜16時
 浄覚寺じゅこ会夏のじゅこ

